

洛北における盆の風流灯籠踊り

福原敏男

Bon Lantern Dance in Northern Kyoto

- ①はじめに
- ②盆踊り研究の現在
- ③灯籠踊りの画像資料「十二ヶ月風俗図」
- ④洛北の灯籠踊り
- ⑤近世文献に記された長谷・岩倉・花園の灯籠踊り
- ⑥描かれた洛北の灯籠踊り
- ⑦おわりに

[本文解説]

国立歴史民俗博物館に所蔵されている紙本捲り一枚の「長谷踊夜宮図」は新出の洛北灯籠踊りの絵画資料である。京都市左京区の岩倉盆地の東に鎮座する長谷（ながたに）八幡宮で演じられている盆の灯籠踊りを描いたものと思われる。現在、伝承は絶えているが、この灯籠踊りには、長谷の集落の人々のみでなく、岩倉と花園の村人も参加した。灯籠上の造り物として、水車、御座船、牡丹、鳥居と神社、梅、桶に柳、花瓶などが判別できる。人間が被ることが果たして可能かと思われるほど、台座の灯籠部分が肥大している。現在の京の盆の芸能としては、西南部には芸能的六斎が席巻し、東北部には念仏踊りや題目踊りが伝えられている。京の町中で十六世紀まで流行した風流踊りの流れは、六斎（中堂寺・壬生）の棒振りや今宮のやすらい花のうちに命脈を保っている。また、灯籠踊りの面影をとどめるところは、わずかに京都の北、若狭街道沿い（高野川沿い）の近郷農村の村々である。すなわち、現在では左京区の

久多の花笠踊りと、同区八瀬の赦免地踊りを数えるのみである。近世の文献や画像資料から考へると、長谷八幡宮においても、室町時代の趣が横溢している盆の風流灯籠踊りが行わっていたのである。